

障害者計画策定についての障害当事者部会員アンケート結果

1 自立に向けた地域生活支援の充実

- ・障害のある方が、一人で、もしくは誰かに助けてもらいながら、地域で自立して生活できる場所を作っていくこと
- ・その人が必要とするサービスが、適切・適量に受けられるようにすること

・福祉センターの建て替えに伴うサービスの充実においては、特に障害者相談支援事業の人的、予算面での大幅な充実

・地域活動支援センターに対して格段な予算等の割り当て

・自立支援医療の申請、更新に伴う事務手続きの簡略化

・地域生活の移行の面だけでなく、多角的・多方面の精神科障害者の大幅な福祉の向上

・障害者が情報にアクセスしやすくなる施策の実施の拡充（情報のバリアフリーに対して強力な推進）

・人間は障害者に限らず、誰かに依存しながら生きていくものですが、最近は核家族化に伴い、他人に対して関心も希薄になってきていると思います。

そこで、助けが必要な人は、相談する場所と適切な相談相手を見つけることが必要ですが、それを見つけるのは難しいので、この計画は必要だと思います。

また、専門家が適切かつ適量な支援の提案をするのは必要だと思います。

・地域生活が充実し、必要とするサービスが受けられる情報を障害者にわかりやすくしてほしいです。

・飲食店にかかわらず、障害者割が適応されればと思います。

・僕もサポートを受けて自立した生活をできるようになりたい。そういう場所を作りたい。

・施設を利用するとか、移動支援とかがサービスやサポートだということは自分の周りにもあるということはよくわからなかった。サポートに結びつかなかった。

2 相談支援の充実と権利擁護の推進

- 困ったときなどに色々な相談にのってもらえるようにすること
- 障害のある方の権利が守られながら、気持ちよく暮らせるようにすること

• 地域自立支援協議会の運営という事業の目標に障害当事者部会を確固として明記、位置づけをし、一層の大きな機能強化を図るとともに、協議会と各部会の地位向上。

• 総合的な相談業務を行う基幹相談支援センターにおいて、全精害に対するワンウェイ型ピアカウンセリングを実施し、ピアカウンセラーにはスーパーバイザーをつける。

• NPO など民間の権利・擁護・成年後見などを行う団体への助成

• 相談や支援を受けるところはありますが、いろいろな部署に分かれているため、どこに何を相談すべきかわからないことが多いと思います。

私は主人がいて、相談に乗ってもらえますが、身寄りのなく本当に相談が必要な人の相談の場所が必要だと思います。

このような場所が広く知られるような、PR 活動がもっと必要だと思います。

社会的弱者の意見がきちんと聞いてもらえる場所が必要です。

• 地域で一緒に住む方々の理解を各委員の人達が伝えることを充実してもらいたいと思います。

• 相談できる場所が今は、区役所しかないので、もう少しいろんな場所で相談したいです。なるべく女性。

• 困ったときは、職員やお母さんに相談している。

3 障害者が当たり前前に働ける就労支援

- ・当たり前前に仕事ができるよう、または続けられるように支援すること

- ・中小企業等障害者体験雇用助成事業の助成拡大と体験雇用だけでなく、「雇用」の更なる促進
- ・障害者雇用の普及・啓発での本格的な就労の機会拡大の実施
- ・福祉施設等における利用者の安定した工賃と工賃の増加
- ・地域開拓促進コーディネーターの拡充
- ・区役所等での障害者雇用の利便化・簡略化
- ・障害の種類と個々の考え方によって違ってくるので、難しいと思います。
本当は健常者と障害者が一緒に働くことが望ましいと思いますが、それぞれの立場と能力の違いから、長く一緒に働くことはそれぞれのストレスになると思います。
職場で障害者と健常者が対立するのは避けたいと思います。
できれば、同じ障害を持った者で自分達にあった業務ができる職場が必要です。
- ・障害者が仕事を続けて働くことは難しいと考えます。
よく支援される方々は、障害者の程度を考えて相談してほしいです。
- ・前の職場で嫌な事があって、もう少し早く就労支援に相談して解決したかったです。
今の職場はみんな障害者同士なので楽しいです。
- ・僕は今、仕事をしていないけれど、仕事にもっと休憩が欲しかったと思った。
自分の体調に合わせて仕事ができると続けられるのかと思った。

4 子どもの育ちと家庭の安心への支援

- ・障害のある子どもとその家族が安心して過ごせるように支援すること

- ・バリアフリーパートナーという言葉の普及
- ・正直言って子供がいないのでよくわかりません。
何が必要なのかは、これからこの部会を通して勉強したいと思います。
- ・家族が安心して過ごせる為に、地域とのふれあいと理解をしてもらい、障害の子どもの将来を考えて障害手帳を充実してほしいです。
- ・僕は子供を育てたことがない。もう少し、病院にかかるお金が安くなれば、自分も家族も元気になって健康でいられるので安心して過ごせると思う。

5 ひとにやさしいまちづくりの推進

- ・段差がない、道が広いなど、安心・安全に暮らせるまちづくりを進めること
- ・学校や職場、地域など、周りの人に対して、障害者や障害についての理解を進めること
- ・障害のあるなしに関わらず、地域の活動などが参加しやすくなるようにすること

- ・公園再整備事業など他の事業も含め、水飲み場の充実とわかりやすい表示
- ・コミュニティバス障害者割引と利便性の向上
- ・「心のバリアフリー」の事業に対しては、対区民だけでなく、対他障害にも実施するだけでなく、多方面にも強力な充実した実施
- ・ボランティア養成講座等の拡充
- ・ボランティア・市民活動まつりやボランティア連絡会の活発化
- ・障害当事者などが演者となる講演会などに対して助成するなど活発化させ、障害者のナマの声によって理解促進を増進
- ・足の悪い私には是非推進してもらいたい内容です。
区の施設を建てる計画であれば、障害者の意見を聞いてから進めるような配慮があればよいと思います。
健常者が考えるバリアフリーと実際に使う障害者が使いやすいものとは違うと思います。
障害者が地域活動に参加するだけでできることは少ないと思います。行政の積極的な支援があるとよいと思います。
- ・やさしい町づくりを充実してもらいたいです。
- ・駅構内にあるエスカレーターとエレベーターを付けてほしい。段差を少なくしてほしい。
- ・障害者のことを理解して傷つく言葉を言わないでほしい。
- ・バスに乗ることが多く、並んでいる列や時間など、分りづらい所がある。
お年寄りにも字が小さく見づらそうにしているのを見たことがあります。もっとわかりやすいバス停にしてほしい。

6 防災対策と緊急事態に対する支援

- ・地震や火事、緊急事態などの時のための準備を進めること

- ・ヘルプカード、ヘルプマークの普及と区民に対して理解を深めるなど周知・啓発
- ・普段から情報難民になりがちである精害者に対して、ホームページの利用やケーブルテレビの視聴に助成金や優遇措置を講じる。
- ・障害者にわかりやすい防災用語などを簡単に説明したパンフレットなどの作成
- ・私も災害時の要支援者として登録してありましたが、東日本大震災の時に、担当者が安否確認に来てくれたのは夜遅くでした。
実際の災害で支援が受けられるのか？と不安になりました。
緊急事態に備えるのは隣近所の支援が必要で、普段から近所付き合いが大切だと感じました。
- ・障害者は一人では何もできないので、地域で相談する人と場所を知らせてほしいです。
- ・地域の人といざとなったら協力し合いながら助け合う防災訓練を強化してすぐ動けるようにしたい。
- ・具体的に何を支援してくれるのか、よくわからない。

その他意見

アンケートを複数回実施してほしい。障害当事者の「ナマの声」（具体的にも）を聴いてほしい。